

JIMGAnews

第37号

平成28年度第2回部門理事会・評議員会合同会議について



間会長挨拶の様子

11月29日、メルパルク大阪で平成28年度第2回部門理事会・評議員会合同会議を開催しました。

会議に先立ち行った記者懇談会では、間会長より産業ガス部門、医療ガス部門共通の課題として、電力料金の問題、消費税増税への対応、保安・安全の推進、事故撲滅への取り組み等について述べました。続いて永江専務理事および瀬戸常務理事よりそれぞれ産業ガス部門、医療ガス部門の取り

組みについて説明しました。

理事会・評議員会合同会議では、理事会が定数19名のうち18名、評議員会が産業ガス部門定数38名のうち29名、医療ガス部門定数48名のうち38名が出席しました。

間会長は冒頭の挨拶で、当業界の国内需要は前年をわずかに超えるレベルであるが、一部原発の再稼働差し止めによる値下げ見送りや、再生可能エネルギー固定価格買取制度（FIT）賦課金による業界全体への電力料金の影響は、平成23年3月比で106億円に上ると述べました。このFIT賦課金の減免制度は本年5月に改定されましたが、当業界の省エネの取り組みが評価されるよう運用されることになったことに触れたうえで、今後も引き続き電力問題に対応していくとの方針を示しました。また本年続発した放置容器等の破裂事故への対応については、今まで以上に精力的かつ地道な活動を行っていくと述べました。

その後、議長に選出された間会長の進行により審議が行われました。審議事項については「入会希望事業者審査の件」が全会一致で承認されました。

報告事項では、平成28年度上期活動報告、平成28年度中間収支計算書

報告、および今後の主要日程等の説明を行いました。詳細は平成29年3月発行の「産業ガスレポート」に掲載します。



会場の様子

(広報委員会事務局・石原 智子)

会員紹介 ー江藤酸素株式会社ー

創業と沿革

当社は、戦後の混乱期にあった昭和21年10月に大分県南部の佐伯市で江藤酸素店として創業し、今年で創立70周年を迎えることができました。社是である「努力・誠実・前進」の信条に基づき、多くのお客様やメーカー・商社の皆様との絆を大切にして、関係者の皆様にご支援をいただき、今日を迎えられたことに深く感謝申し上げます。

創業当時は客先を1軒1軒回って販路を開拓する営業活動を行っておりました。昭和33年5月に江藤酸素店から現在の「江藤酸素株式会社」に改組し、昭和37年からは大分工場にて溶解アセチレン等の一般高圧ガスの製造を開始しました。昭和44年には、鶴崎臨海工業地帯の完成を機に、本社を佐伯市から現在の大分市に移転し、九州全域に販売ネットワークを構築してまいりました。

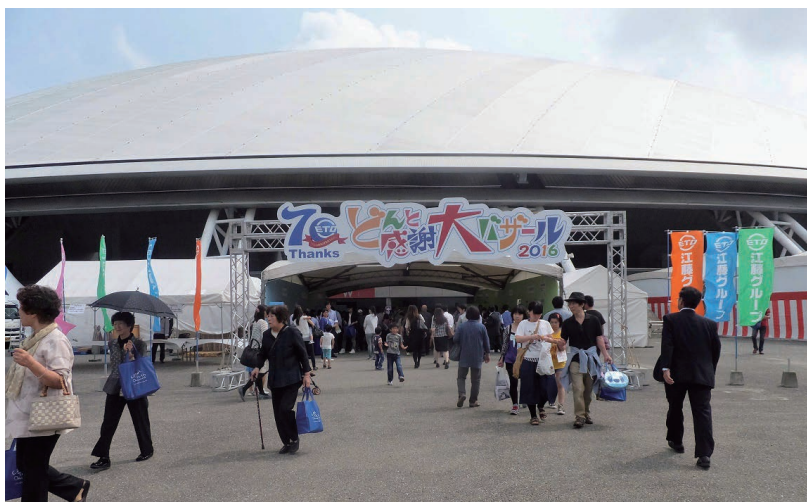
昭和40年代にはエンジニアリング部を新設して医療ガス・工業ガスの配管設備の設計、施工、維持管理を自前で行える体制を構築し、ガスに関してお客様にトータルソリューションを提供できる組織を作り上げてまいりました。

海外展開と創業70周年記念「どんと感謝大バザール」の開催

海外展開も早くから注力しており、平成19年に台湾で現地法人を設立したのを皮切りに、中国の大連・上海へ貿易会社、大連のガス会社の買収、韓国（釜山）、ベトナム（ハノイ）と6社の現地法人を設立し、貿易業務や各国での販売活動を推進しています。

また、毎年開催している「どんと感謝大バザール」は、多くのメーカー・商社の皆様に出展いただき、九州各地から多くのお客様に会場にきていただいております。今年も創業70周年記念行事の一環として、規模を大きくして開催し、医療セミナーにも多くの病院関係者の皆様に参加いただき活況を帯びた展示会となりました。

リーマンショックや造船不況などが重なり厳しい時期が続いておりましたが、この3～4年は造船業界を始めとする主要取引先様の受注量が高水準を維持されたこともあり、当社の業績も概ね順調に推移してまいりました。ただし、今後は再び厳しい環境下に置かれることも想定しております。造船業界におきましては、概ね2～3年先まで手持ち工事量を確保しておりますが、中国の景気減速を受けて船余りの状況にあり、再び新造船の受注環境が厳しくなり、建造ピッチの先延ばし等の現象が出てきています。



「どんと感謝大バザール2016」会場の様子

■新事業への取り組み

新たな取り組みとして、平成26年11月に「溶存開発部」を設けました。「ぷくぷくファイン」と名付けた、1000分の1ミリの微細気泡（ファインバブル）を連続的に発生させるPSA方式の高濃度溶存酸素化装置が、有明海のノリ養殖業者、イチゴや小ネギ・レタス等の水耕栽培に導入されています。畜産業においては大分県のブランド豚「錦雲豚」^{きんうんどん}の給餌水へ供給することで、給餌用配管内の汚れ除去の効果も出ています。また糞尿の脱窒素を目的とした汚水処理にも採用され、水産分野でもエビやドジョウの水槽に導入され、鮮度保持・収穫量アップに効果を発揮しています。ファインバブル技術は、今後多くの分野での活用が期待され、販路拡大が見込まれております。

また、昨年6月に江藤産業と合併で設立した「大分EBL水素ステーション(株)」において、本年4月に水素ステーションの開所式を行いました。来たるべき水素エネルギー社会に向けて、当社も地域に産業ガスを安定的に供給する事業者として責任を果たすべく、水素ステーション事業に参入させていただきました。

新たな時代の到来に迅速に対応できる体制や人材を育成し、来たるべき80周年、そして100周年に向け、大分から九州、そしてアジアへと事業展開を加速させ、更なる飛躍・発展へと邁進していきたいと思っております。



大分EBL水素ステーションでの水素ガス充填の様子

(江藤酸素株式会社 専務取締役 山本 和久)

第73回IOMAサンディエゴ総会

去る10月25日～26日にサンディエゴのThe Fairmont Grand Del Marホテルにて、第73回IOMAサンディエゴ年次総会が開催されました。

初日は参加者全員による自己紹介、続いてIOMA理事長Thoman氏（Airgas）が議長となり今回の年次総会テーマ『環境と事業の持続』について説明が行われ、定足数の確認、年次総会の成立宣言、2016年度会計報告が行われました。続く講演会では、今回のテーマに沿って、初日

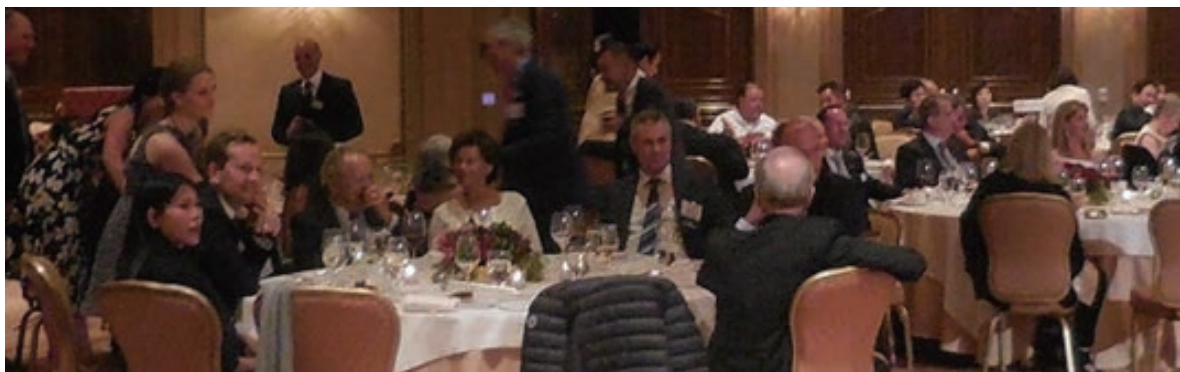


グローバル委員会活動を説明するSalzgeber委員

に『海洋科学の観点から見た地球の生命維持システムが経済に与える影響』と『地球規模での経済活動と非平衡状態との関係』の2件、2日目には『会社の事業持続取り組み報告を基にした投資家の会社への投資』が増えつつあることについて講演が行われた後、IOMA会員会社3社の事業持続取り組み報告とそれに対するパネルディスカッションが行われました。

これまでは、基準の国際統合化活動を支援・監督しているIOMAグローバル委員会の会議が、年次総会期間中に開催されていましたが、今回は都合により総会の1週間前にweb会議として開催されました。総会では国際統合化活動のプロモーションのため、初日の講演終了後、委員会のSalzgeber委員（Air Liquide）から、①グローバル委員会メンバー紹介 ②国際統合化活動から得られる成果 ③2016年に発行された重要な基準と2017年に統合化を予定している基準 ④国際統合化活動功労賞ならびに発行基準検討合同作業部会参加者への感謝状贈呈について説明がありました。

初日夜にはIOMA President Banquetが催され、席上Thoman理事長から2016年国際統合化功労賞がPraxairのJohn Bernard氏に贈呈されました。



President Banquet風景(上)と功労賞受賞(下)

2日目のパネルディスカッション終了後、Thoman理事長から、年次総会初日午後で開催された理事会での検討事項が説明され、①5社が新会員として加盟 ②2017年理事会役員と理事会委員の発表 ③新任および退任理事の紹介 ④第74回IOMAドバイ年次総会の2017年11月11日～15日開催が報告され、無事に年次総会は終了しました。



年次総会の議事進行を行うThoman理事長

(国際部会事務局・仲山 一郎)

新事務局員の紹介



名 前：羽坂 智 (はさか さとし)

現住所：東京都品川区

出身地：北海道

生年月：1959年 9月

略 歴：1984年 4月 日本酸素(株) 入社

1995年 4月 マチソンガスプロダクツ出向 主任研究員

2002年 6月 日本酸素(株) 産業ガス事業本部 開発部長

2010年 4月 マチソントライガス出向 VP

2013年 11月 大陽日酸(株) 技術本部 技術標準化推進部長

2016年 11月 JIMGA 常務執行役員

趣 味： スポーツ観戦、特に相撲を見に行きます。ゴルフは健康のために月1回ペースでプレーしています。ジョギング、散歩もよくします。

抱 負： 会員皆様の保安維持や技術向上に役立ちますよう、国際統合化技術情報等をアジア (AIGA)、ヨーロッパ (EIGA)、アメリカ (CGA) の産業ガス協会と共調し、正確かつタイムリーにお伝えするよう努力してまいります。ご指導よろしく願います。